



自分の山を登る 《女性編》

永田円了

To Be Yourself

自分を生きたい、でもなかなか生きられない。学歴、高収入、マイホーム、加えて社会的評価、これが自分が生きた証しと言えるのか。自分を生きるとは一体どういうことなのか。自分の山を登るとは？

自分の価値を何によって決めるのか

自分の価値を何をもって決めたらいいのか。周りの評価で決めるのか、名刺の肩書きか、履歴書に羅列してある学歴や過去の業績か、それとも何々賞受賞と新聞に載ったことで決めるのか。

「外からの評価で自分の価値を決めるように考えるなら、私は監督を辞めます」と、映画監督スティーブン・スピルバーグは言った。また仏哲学者サルトルは言った。「人は自分の中に他人の目を入れると地獄を見る」と。このように社会的評価で自分の価値を決めることを「他人の山を登っている」という。

では逆に、自分の価値は自分で決めるぞ！と叫ぶ人は、単に我（エゴ）をはっているだけ。一般的には、人は社会的評価もほしい、でも「自分の山も登りたい」と、漂う人になっている。“自分を生きる”とはかくも容易ではない。

◆現代人の「5つの間違い」

1. 自分で生きている
2. 人間は偶然によって発生した
3. 死んだら灰になっておしまい
4. 人間の価値は社会的な評価やカ
5. 他人の山を登るのが生きる道

男と女の脳の違いは、『話を聞かない男、地図が読めない女』主婦の友社出版によると、男は、達成、権力、性欲、



女は、関係、安定、愛、これら三つのことを無意識的に 30 分に一度の割合で考えているという。注目すべきは、男と女の関心事は、まったく異なっているということである。言うなれば男と女は、それぞれが異なった遠星から来た宇宙人たちなのである。この認識がうすいと、一方が勝手に相手に自分の考えを押しつけ、「何で分からないの！」と嘆くことになる。

女性は何を恐れているのか

関係性、安定性、愛、が満たされているとき、女性の心は幸せである。逆にその三つが脅かされるとき、心は闇に向かう。いや現実に脅かされる以前から、将来起こるかもしれない事態を恐れているのである。これが何故女性がリーダーの役割をとりたがらないのか、の理由になっているとシェリル・サンドバーグ女史 (Facebook COO) は述べる。

結婚か仕事か、家庭か仕事か、これらの選択はそのときが来たら真剣に考えればよいこと。仕事を始めるときから出口を探さないでほしい。ブレーキから足を外し、どうしても決断しなければならぬときまで、アクセルを踏み続けよう。全力疾走し続けるからこそ、その日が来たときにきっと納得のいく決断を下せるはず、とサンドバーグは言う。

<事例 DVD>

笹田信五、自分の山を登る NHK ころの時代 2002 年
 なかにし礼、NHK 課外授業 2003 年
 キューブラ・ロス、河合隼雄氏との対談/NHK ころの時代 1985 年
 スピルバーグ監督、自分の山を登る Actor's Studio 2002/1/4
 クローズアップ現代、河野千鶴子 (66 歳) 50 歳から登山に挑戦 2013/7/10
 クローズアップ現代、シェリル・サンドバーグ、2013/7/9
 美空ひばり/徹子の部屋/外見を気にする/しかし母の話になると...
 落合恵子/ころの時代/母から学んだこと 2013/7/13
 歌・A Natural Woman / Carol King, Mary Jo & Fergie 2008 年日本武道館公演



LEAN IN

WOMEN, WORK, AND
THE WILL TO LEAD

SHERYL SANDBERG